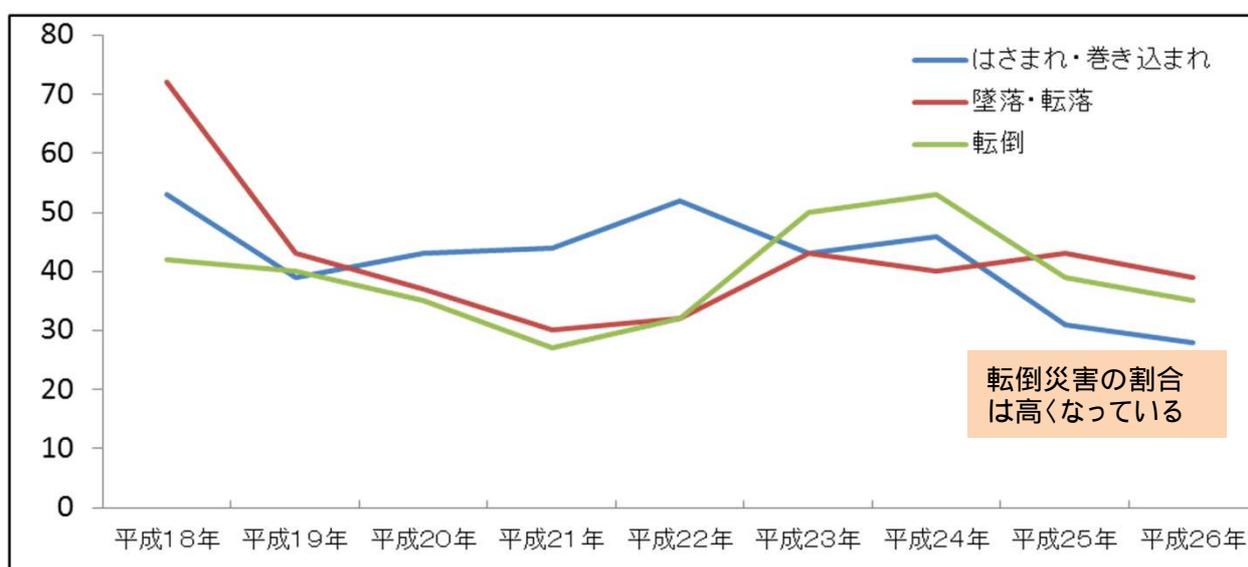


STOP！転倒災害プロジェクト2015

平成26年の古河労働基準監督署管内における休業4日以上の労働災害のうち、転倒災害によるものは35件で全体の14.8%を占めています。

事故の型別にみると転倒災害は、はさまれ巻き込まれ災害を上回る災害要因となっています。特に高齢者が転倒した場合は重症化する割合が高く、休業期間が長くなることも少なくありません。

古河署管内の事故の型別労働災害発生状況



転倒災害の種類と主な原因

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。あなたの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り



[主な原因]

- 床が滑りやすい素材である
- 床に水や油が飛散している
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている

つまずき



[主な原因]

- 床の凹凸や段差
- 床に放置された荷物や商品など

踏み外し



[主な原因]

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での作業



古河労働基準監督署

転倒災害防止対策のポイント

設備管理面の対策

[4S(整理・整頓・清掃・清潔)]

- ◆ 歩行場所に物を放置しない
- ◆ 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- ◆ 床面の凹凸、段差等の解消



転倒しにくい作業方法

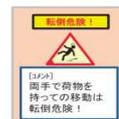
[あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて]

- ◆ 時間に余裕を持って行動
- ◆ 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行
- ◆ 足元が見えにくい状態で作業しない



その他の対策

- ◆ 作業に適した靴の着用
- ◆ 職場の危険マップの作成による危険情報の共有
- ◆ 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起



「STOP! 転倒災害プロジェクト茨城2015」がスタートしました。

期 間 平成27年2月1日から12月31日まで

茨城労働局・各労働基準監督署は、労働災害防止関係団体と協力し、休業4日以上
の死傷災害で最も多い「転倒災害」を減少させるため、様々な取組を実施します。特に、
転倒災害の多い2月と全国安全週間準備月間である6月を重点取組期間として、安心して
働ける職場環境の実現を目指します。詳細は、以下のホームページ等を参照してくださ
い。

茨城労働局ホームページ

<http://ibaraki-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/>

「STOP! 転倒災害プロジェクト2015」特設サイト

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html>

[コラム] 正しい靴の選び方

靴は、自分の足に合ったサイズのものを使いましょう。小さすぎる靴では足指が動かしにくく、バランスを崩したときに足の踏ん張りがきかなくなります。逆に大きすぎる靴では、歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかとが、足の動きに追従できなくなります。

以下のポイントにも注意して、作業に合った靴を選びましょう。

靴の屈曲性

靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。



靴の重量

靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。

靴の重量バランス

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく(トゥダウン)、無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じやすくなります。



つま先部の高さ

つま先部の高さ(トゥスプリング)が低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。高年齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向があるため、よりつまずきやすくなります。



靴底と床の耐滑性のバランス

滑りやすい床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑りやすさの程度に応じたものとする必要があるため、靴はできるだけ履いてみてから選定することをお勧めします。